

スポーツ博物館・図書館の概要

資料5

1. 国立競技場に設置された秩父宮記念スポーツ博物館の概要

開館：昭和34（1959）年1月～平成26（2014）年5月

場所：国立競技場内

規模：2,169m²

	博物館		図書館		事務所	合計
	展示室	収蔵庫	閲覧室	書庫		
面積 (m ²)	935	728	182	203	121	2,169
割合	43%	34%	8%	9%	6%	100%

累計来場者：800万人(昭和34年～平成26年)

直近の平均入場者数：年約12,000人（平成20～25年）

※H25.9のオリパラ開催決定後入場者急増

職員数：9名（うち学芸員2名）※平成25年

博物館法上の資格：博物館相当施設

開館時間：9：30～16：30（入館受付16：00まで）

休館日：博物館は第2・第4火曜日 年末年始、他に2週間
図書館は土・日・祝日 年末年始、他に2週間

入館料：一般300円 高校生以下100円

団体（20名以上）一般200円 高校生以下50円

図書館は入館無料

主な収蔵品・蔵書：

（博物館）約6万件

・秩父宮雍仁親王殿下関係資料、オリンピック関係資料、日本のスポーツ史（明治期～現代）

（図書館）約16万冊

・江戸後期、明治期大正期の貴重書

・歴代オリンピック大会報告書、競技団体機関紙など

主な展覧会や活動

（常設展に加え企画展を実施）

・スポーツと映像

・全国スポーツ写真コンクール展

・SAYONARA国立競技場展

（シンポジウム）

・「スポーツ文化調査研究協力事業」（シンポジウム2009年2月7日、雑誌発刊）

（イベント）

・国立競技場スタジアムツアー

2. 綾瀬倉庫移転後の概要

開館：平成26（2014）年6月～現在
（契約期限）平成32年3月

場所：足立区綾瀬

規模：1712m²

	博物館		図書館		事務所	合計
	展示室	収蔵庫	閲覧室	書庫		
面積 (m ²)	0	1025	130	427	130	1712
割合	0%	60%	8%	25%	8%	100%

職員数：7名（うち学芸員2名、司書1名）※平成30年

足立区綾瀬の倉庫を借り上げて、平成26年6月に博物館及び図書館資料を移転した。展示機能は持たず、収蔵機能に特化し、再開館に向けて資料の整理を実施している。展示公開に関しては、文化庁の補助事業（平成27年度～29年度）を活用した巡回展の実施や、貸出による他館等への協力を行った。

また、図書館については、平成26年9月から事前予約の上、閲覧・複写サービスを実施してきた。

※平成30年度から貸出、閲覧サービスは休止

主な収蔵品・蔵書

（博物館）約6万件

秩父宮殿下関係資料、オリンピック関係資料、日本のスポーツ史（明治期～現代）

（図書館）約16万冊

江戸後期、明治期大正期の貴重書

歴代オリンピック大会報告書、競技団体機関紙など

主な展覧会や活動

（巡回展）

・2020年オリンピック・パラリンピックがやってくる（文化庁補助事業）

平成27年度～29年度

10か所 合計来場者数 約65,000人

※三重県総合博物館、岩手県立博物館、東北歴史博物館等

（シンポジウム）

・「これからのスポーツ博物館のあり方について」
（文化庁補助事業2015年10月10日）

（資料貸出）

平成26年度～平成29年度

60件 約900点 年平均225点

※長崎国体、警察博物館、わかやまスポーツ伝承館
江戸東京博物館、北海道博物館、立山博物館、早稲田大学等

（図書閲覧等サービス）

平成26年度～平成29年度

利用者数 約100人 年平均25人

利用冊数 約2,500冊 年平均600冊

レファレンス回答数 約300回 年平均75回

（資料整理）

データリスト化など既存資料の整理の実施

(参考) 国立競技場に設置された秩父宮記念スポーツ博物館 過去の実績 (平成20年度～平成26年度)

区分		H20	H21	H22	H23	H24	H25	平均	参考 ※1 H26	
博物館	入場者数(人) (A)	10,834	8,738	6,272	6,674	8,467	※2 27,968	11,492	3,939	
	資料貸出数	(件)	37	10	10	9	18	14	18	
		(点)	196	19	19	11	19	93	59	※3 535
図書館	入場者数(人) (B)	928	947	811	679	733	852	825	※4 27	
	来館者資料利用数(冊)	9,036	10,679	7,072	9,509	7,424	6,389	8,351	255	
	資料複写依頼数	(件)	260	280	222	—	—	—	254	193
		(点)	6,783	5,851	4,598	6,651	5,601	9,520	6,500	755
	レファレンス回答数(件)	—	—	—	—	—	—	—	—	29
スタジアムツアー参加人数(人) (C)		※5 —	—	—	—	468	※6 3,848	2,158	—	
入場者数・参加人数の合計(人) (A+B+C)		11,762	9,685	7,083	7,353	9,668	32,668	13,036	3,966	

(「—」は、カウントなし)

※1 新国立競技場整備事業に伴い、スポーツ博物館は平成26年5月7日から休館、図書館は平成25年12月27日から休館。
平成26年6月から綾瀬倉庫移転。

※2 平成25年度の総入館者数は、2020年オリンピック・パラリンピックが東京に決定した9月以降の来館者数が大幅増。

※3 平成26年度の貸出数については、長崎国体、警察博物館、わかやまスポーツ伝承館へ1件で100点前後の大口貸出による増。

※4 図書館については、平成26年9月から、事前予約の上、閲覧・複写サービスを実施。

※5 スタジアムツアーは、平成24年度から実施し、平成25年11月で営業終了。平成26年1月から実施内容を変更し、「SAYONARA 国立競技場プロジェクト」として実施。

※6 平成25年度のスタジアムツアー参加人数は、8月以降の実施回数を大幅に増やしたことによる増。

3. スポーツ博物館・図書館の沿革

(1) 設置から新国立競技場整備に伴う休館まで（昭和28（1953）年～平成26（2014）年5月）

日付		内容	
1953年	昭和28年	-	秩父宮雍仁親王殿下のスポーツ界に対するご功績を記念してスポーツ記念館を建設するための募金運動開始 国立競技場建設計画に組み込まれたことで建設計画が具体化
1958年	昭和33年	4月	国立競技場開設（特殊法人国立競技場が運営）
		7月	財団法人日本体育協会、財団法人秩父宮記念会、文部省及び国立競技場関係者によって「秩父宮記念体育博物館開設実行委員会」が設置され準備が進められる
1959年	昭和34年	1月	国立競技場内に「秩父宮記念スポーツ博物館」開館（図書館も併設）
		4月	文部省から博物館法第29条の規定に基づく博物館に相当する施設の指定を受ける
1964年	昭和39年	10月	東京オリンピック開催 東京オリンピックに関するスポーツ展覧会や巡回展が各地で行われる
1986年	昭和61年	3月	特殊法人日本体育・学校健康センター設立。国立競技場の事業が承継される
2001年	平成13年	12月	独立行政法人日本スポーツ振興センター設立。特殊法人日本体育・学校健康センターの事業が承継される
2012年 2013年	平成24年 平成25年	平成24年8月	JSCが「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の在り方検討委員会」を設置
		平成24年11月	「新秩父宮記念スポーツ博物館・図書館（仮称）基本構想」策定（秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の在り方検討委員会） 従来のスポーツの歴史資料等の収集・保存・公開にとどまらず、「スポーツ基本法」の理念を踏まえながら、生涯学習・総合学習・体験学習等の教育普及面に重点を置いた機能を付加させるなど、広く国民から親しまれる社会教育施設としての機能を持たせて開設する必要がある。
		平成24年1月	JSCが「新国立競技場将来構想有識者会議」を設置
		平成24年7月	第2回「新国立競技場将来構想有識者会議」にて、博物館、図書館が整備される方針が決定された スポーツ振興機能 スポーツのすばらしさを伝えるスポーツ博物館、図書館棟を整備する
		平成25年11月	「基本設計条件」 新国立競技場がスポーツ、文化の拠点として機能するため、スポーツの素晴らしさを伝える秩父宮スポーツ博物館と図書館、また、地域住民に開放するトレーニングセンターを併設する。
		平成26年5月	「基本設計」 商業文化施設 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館、地域住民も利用可能なトレーニングセンターを併設。スポーツ文化の普及に寄与する。
2014年	平成26年	5月	新国立競技場整備のため休館 綾瀬倉庫へ移転

(2) 綾瀬移転後から現在まで 平成26(2014)年6月～

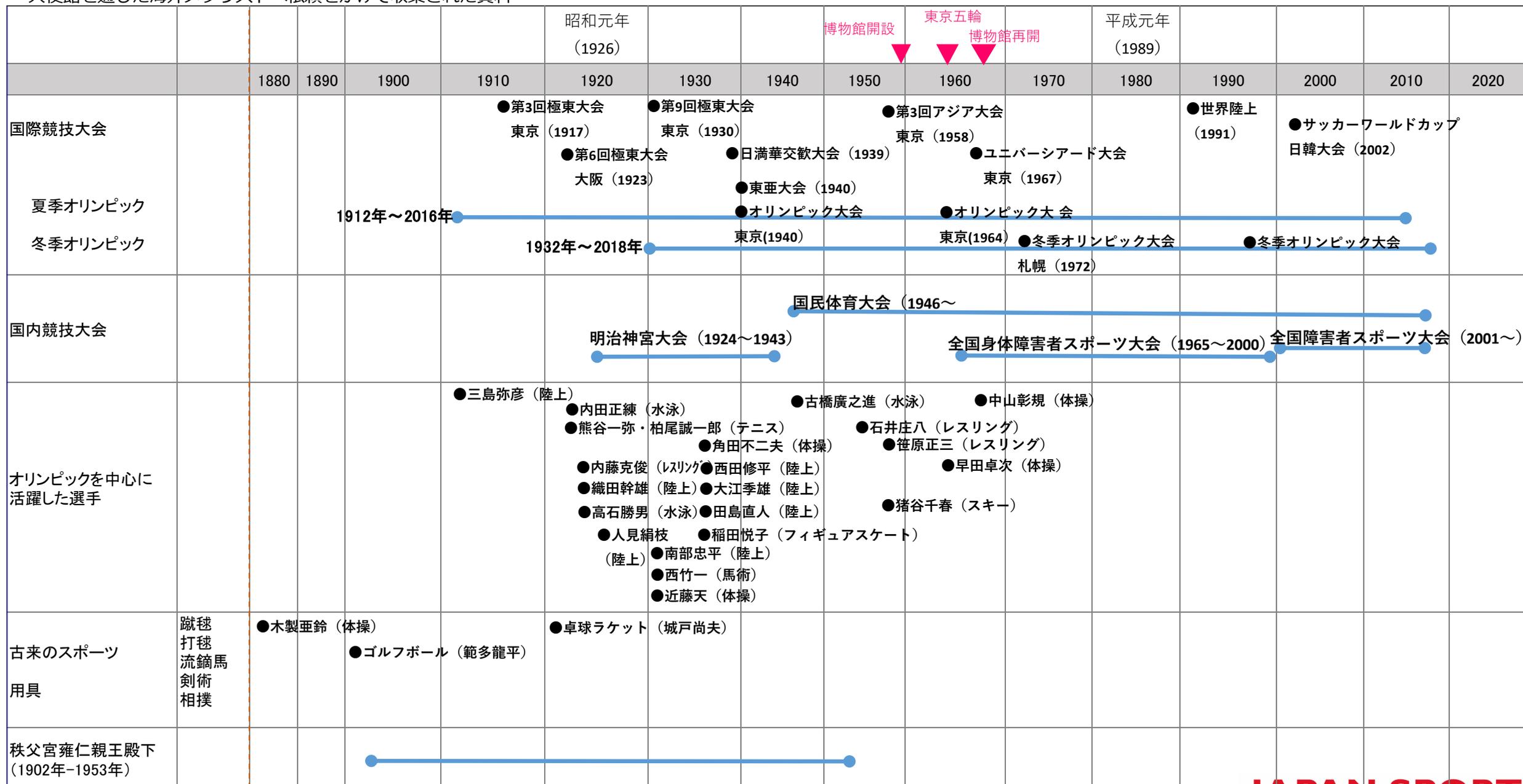
日付			内容
2014年	平成26年	6月	綾瀬倉庫への移転完了(倉庫借用期間は平成26年4月から平成32年3月)
2015年	平成27年	3月	「新秩父宮記念スポーツ博物館・図書館(仮称)展示基本設計」取りまとめ
		4月	スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員会をJSCが中核館となって組織し、文化庁補助事業「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」を実施。秩父宮記念スポーツ博物館巡回展等を行った。(平成27年度～平成29年度)
		7月	新国立競技場整備計画が白紙撤回となる
		8月	「新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議」により「新国立競技場整備計画」策定 新国立競技場の性能(スペック) ○新国立競技場の施設については、原則として競技機能に限定するとともに、諸施設の水準を大会のメインスタジアムとして適切に設定するため、性能(スペック)は以下のとおりとするホスピタリティー機能及び管理施設・駐車場機能については、大会運営に必要な機能を確保する。スポーツ博物館等のスポーツ振興を目的とした施設は設置しない。 ※JSCが所蔵する秩父宮雍仁親王殿下の御遺品について最終的な保存場所をJSCは早急に検討し、決定すること。
9月	「新国立競技場整備事業 業務要求水準書」 「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館」に収蔵・展示していた秩父宮雍仁親王殿下の御遺品(スポーツ用品、書籍など)については、「各室性能表」に基づき、収蔵・展示スペースを整備する ※展示室:75㎡、収蔵庫25㎡ 合計100㎡		
2017年	平成29年	6月	JSCが法人内に「スポーツ博物館・図書館在り方検討プロジェクト」を設置 スポーツに関する日本で唯一の独立行政法人として、かつ、オリンピック・パラリンピックを開催した国の責務として、オリンピック・パラリンピックの資料を含むスポーツ博物館が所蔵する貴重な資料は国際的な視点から見ても価値があり、ゼロベースで考えたとしても、スポーツ博物館の事業を無くすべきではない。
		11月	秩父宮記念スポーツ博物館・図書館のコンセプト設計に向けアドバイザーから助言を受ける <ul style="list-style-type: none"> ・国の唯一のスポーツミュージアムとして、国のスポーツの歴史に係るレガシーを保有し、国際的な発信を行うことは大事である。 ・「日本のスポーツの歴史」「日本で開催された国際大会およびオリンピック関係資料」のテーマとするのが良い。 ・ネットワークを作って、今まで持っていなかったものも含めて、どこになにかがあるかデータベースとして把握しておくことが重要。 ・資料の所在情報を把握し、レファレンスで対応できるのであれば他館と連携しながら分散管理するのもよい。
2018年	平成30年		「スポーツ博物館将来構想検討会議」設置

4. 収蔵資料の特徴と系譜

収蔵資料の特徴

◆我が国のスポーツ振興のありようを語る歴史的資料がまとまっている 皇室、日本体育協会（現スポーツ協会）、日本オリンピック委員会、競技団体、選手などから寄せていただいた資料

◆1964年東京五輪の一次資料（実物・公文書類・図書）が群として保存されている 大会直後に、組織委員会・日本体育協会（現スポーツ協会）、日本オリンピック委員会、NHK、警視庁、大使館を通じた海外メダリストへ依頼をかけて収集された資料



5. 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館 収蔵品および蔵書

平成30年7月現在

1. 博物館

収蔵品件数 ※1 (件)

寄贈	寄託	購入	その他	総数
45,114	2,376	389	10,749※2	58,628

※1,4 台帳登録上の重複と一括資料の詳細を精査し、更新した件数

※2 受入不明で調査中の件数

※3 平成29年6月以降に返還した件数

寄託品返還件数 ※3

返還	(件)
256	

収蔵品内訳 ※4 (件)

秩父宮雍仁親王殿下 関係資料	オリンピック関係資料	日本のスポーツ史 (明治期～現代)関連資料
92	10,543	47,993

資料種別

種別	資料例	
大型のため、 収蔵棚外に平置きで保管	用具	体操用具(明治期)、スキー板、バット、ボート・オール、リュージュ、鞍馬、ボール、武器
	模型	明治神宮外苑競技場、国立競技場、国立代々木競技場
	彫刻	秩父宮殿下胸像、ラグビー群像、国立競技場マンホール
	絵画	1936年ベルリンオリンピック芸術競技 銀メダル絵画
	写真(大型額)	秩父宮殿下御写真
	機器	国立競技場 電光掲示板照明、陸上競技記録タイプライター
箱に収めて、 収蔵棚で保管	メダル類	オリンピック日本初獲得メダル(熊谷一弥)、日本初金メダル(織田幹雄)、友情のメダル(大江季雄)
	優勝カップ・トロフィー	秩父宮杯(スキー)、全米水上選手権 優勝トロフィー
	旗	秩父宮殿下下賜 日本選手団初代日の丸、全国高校サッカー 優勝旗
	賞状	織田幹雄・古橋廣之進など世界記録証
	衣類	ブレザー、競技ウェア、トレーニングウェア、シューズ、蹴鞠・流鏝馬装束
	ポスター	オリンピックポスター、国体ポスター、明治神宮外苑競技大会、極東競技大会、アジア競技大会
	文書資料	1964年東京オリンピック 組織委員会等文書資料

2. 図書館

図書 件数 ※5 (冊)

図書	雑誌	総数
40,000	125,000	165,000

※5 平成29年6月以降、件数の更新はなし

主な貴重書

年代	書名、巻次、叢書名	著者名	出版年
江戸	当世相撲金剛伝	立川鴉馬作、歌川豊国画	1844[天保15]
明治	体操書 全5巻+附録	ベルギユ著 石橋好一譯	1874
明治	繪本体操圖		1878?[明治10年?]
明治	Outdoor Games	F.W. Strange	1883
明治	西洋戶外遊戯法	下村泰大編	1885.3
明治	文武叢誌 合冊:第1-10号		1893.11-1894.8
明治	内外遊戯全書 全15編	遠山熙著、稲田實著ほか	1899-1900
大正	萬国體育競技會概況 偕行社記事 第461號附録	椎川龜五郎編輯	1913

6. 主な博物館資料

秩父宮殿下関係資料	オリンピック関係資料	日本のスポーツ史資料 (明治～現代)	総数
92件	10,543件	47,993件	58,628件



名称	資料名
秩父宮雍仁親王殿下関係資料	シングルスカール・オール 登山道具(登山靴、ピッケル、ザイル) 御下賜日章旗
オリンピック関係資料	近代オリンピック資料 ・大会ポスター、入賞メダル、参加メダル、記録証など 1964年東京大会、1972年札幌大会、1998年長野大会資料 ・聖火トーチ・保存灯、デレゲーションユニフォーム、賞状、メダルなど
日本のスポーツ史資料	スポーツ用具 ・ユニフォーム、スパイク(三島弥彦)、バッド、ミット、ボール(平沼コレクション) 国内競技大会資料(明治神宮競技大会・国民体育大会など) ・ポスター、メダル、バッジなど

主な図書館資料

図書	雑誌	総数
40,000冊	125,000冊	165,000冊



『当世相撲金剛伝』ほか



『戸外遊戯法』



『Outdoor Games』



『内外遊戯全書』



『アサヒスポーツ』



『ローンテニス』

主な貴重書

名称	著者	出版年
『当世相撲金剛伝』	立川焉馬 作 歌川豊国画	1844(江戸・天保15)年
『體操書』	ヴェルギユ 著 石橋好一 訳	1874(明治7)年
『ローンテニス』1巻1号－18巻10号』	ローンテニス社 出版	1925.4-1953.10(大正14.4-昭和28.10)年
『戸外遊戯法：一名・戸外運動法』	坪井玄道, 田中盛業 編	1885(明治18)年
『Outdoor Games』	F.W. Strange 著	1883年(明治15)年
『内外遊戯全書』全15編	遠山熙 著、稲田實 著 ほか	1899-1900(明治32-33)年
『アサヒ・スポーツ』1巻1号－21巻11号	朝日新聞社 出版	1923.3-1943.6(大正12.3-昭和18.6)年